

スマイルプリキュア!

名作えほん

ももたろう



おともだち
スーパーワイド百科 63

そんごくう



シンデレラ



いっすんぼうし



うらしまたろう



プリキュアと おはなしの せかいへ



スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!

映画
スマイルプリキュア!
SMILE PRECURE!
絵本
おはなしの
せかいへ

本作品は、2012年9月、小社よりおともだちスーパーワイド百科[®]として刊行されたものを電子書籍化したものです。

◎本電子書籍内の外部リンクに関して

ご利用の端末によっては、リンク機能が制限され正しく動作しない場合があります。また、リンク先のwebサイト、メールアドレス、電話番号は、事前のご連絡なく削除あるいは変更されることもございます。ご了承ください。

スマイルプリキュア！
名作えほん

2016年3月1日発行

絵 東映アニメーション
構成 萩谷美可
デザイン バッドビーンズ
©ABC・東映アニメーション
©2012 映画スマイルプリキュア！製作委員会

発行者 清水保雅
発行所 株式会社 講談社
東京都文京区音羽 2-12-21
〒112-8001

◎本電子書籍は、購入者個人の閲覧の目的のためにのみ、ファイルの閲覧が
許諾されています。私的利用の範囲をこえる行為は著作権法上、禁じられて
います。

あおれ
れいか



きせ
やよい



ほづね
おせり



ひの
あかね



めづり
なほ



みゆきたちは えほんの せかいに すいにまれちゃった!



ももたろう………33



うらしまたろう………26



そんぷん………18



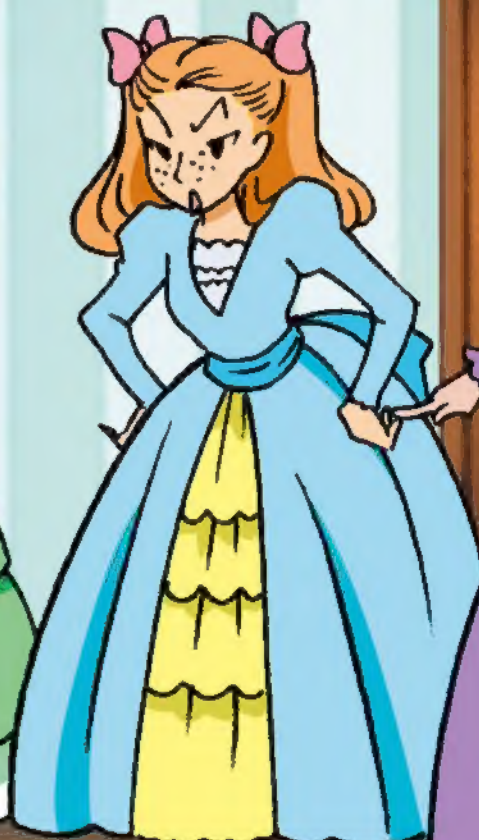
いっすんぼし………11



シンデレラ………3

名作えほんもくじ

シンデレラ



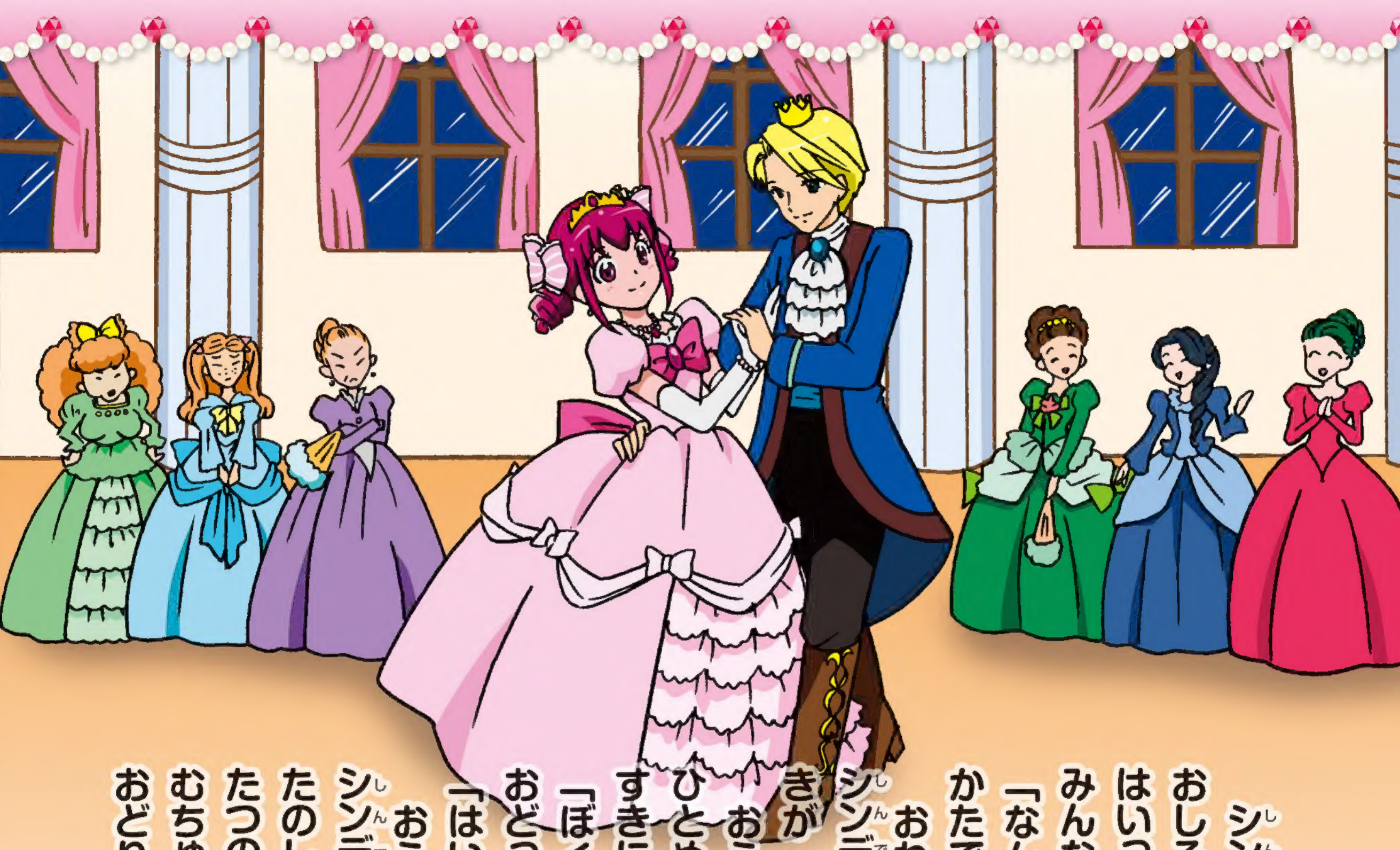
むかし、シンデレラと
いうころのやさしい
おんなのこが
いました。
シンデレラの
あたらしい おかあさんと
ふたりの おねえさんは、
とても いじわるなのです。
「そうじも せんたくも
ぜんぶ おまえ
ひとりで やるんだよ。」
シンデレラは
いっしょうけんめい
はたらきました。



あるひ、
おねえさんたちは
きれいなドレスを
きて、おしろの
ぶとうかいにいって
しまいました。
「シンデレラは
もちろんすばんだよ。」
ひとりに なった
シンデレラは、しくしく
ないて しまいました。
「わたしもドレスを
きてぶとうかいへ
いきたい。」
そこへ とつぜん、
まほうつかいが
あらわれました。
「おまえを
ぶとうかいへ
いかせてあげよう。」

まほうつかいが
つえを ふると、
シンデレラの ふくは
うつくしい
ドレスに、かぼちゃは
ばしやに、ねずみは
うまに なったのです。
「十二じまでに
かえらないと、もとの
すがたに もどって
しまつからね。」





シンデレラが

おしろの ひろまへ

はいつて いくと、

みんな びっくり。

「なんて うつくしい

かたでしょう。」

おねえさんたちは

シンデレラに

きが つきません。

おうじさまは、

ひとめで シンデレラを

すきに なりました。

「ぼくと

おどつて ください。」

「はい、おうじさま。」

おうじさまと

シンデレラは

たのしくて、ときの

たつのも わすれ、

むちゅうで

おどりつづけました。

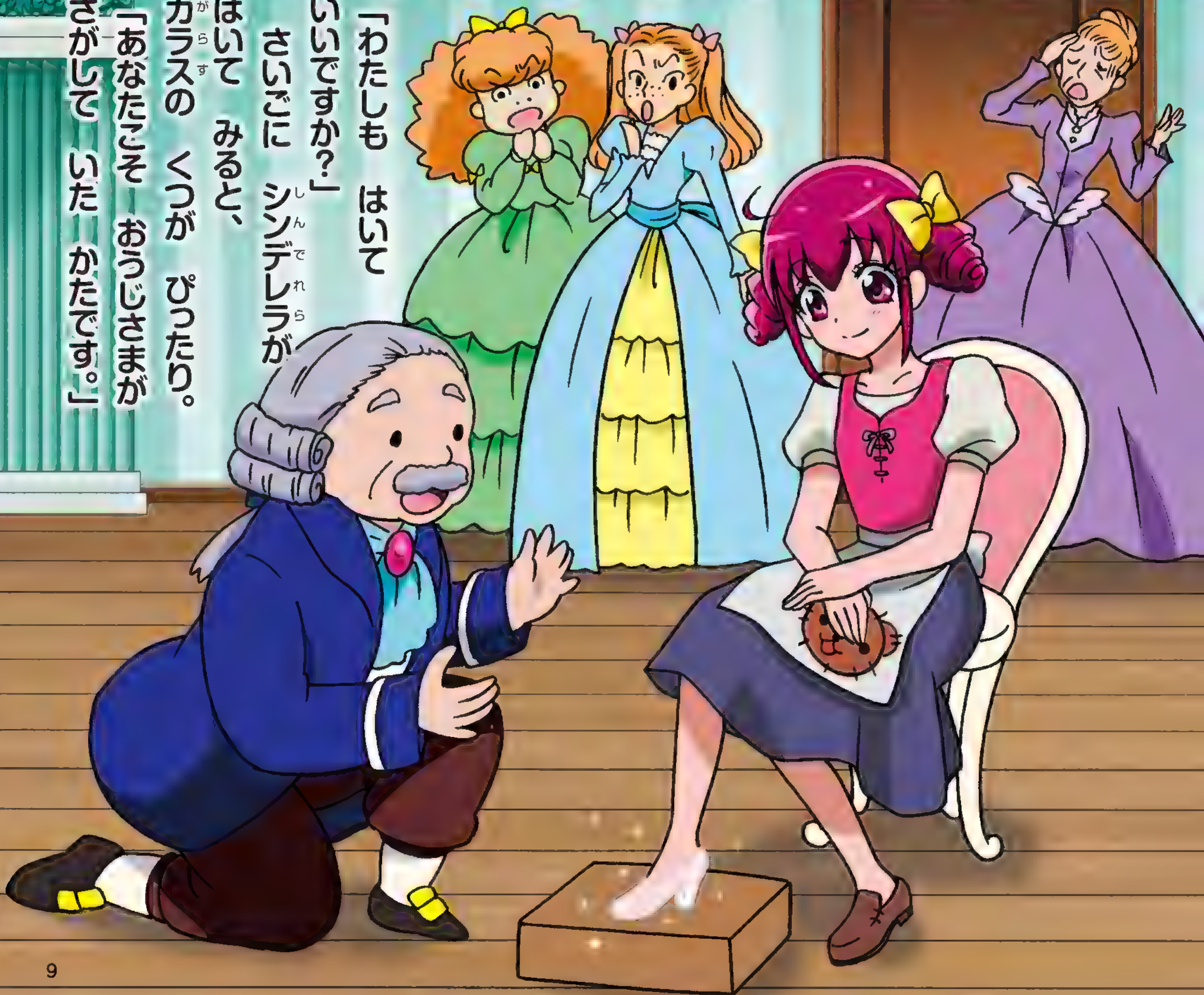
ぼーん、ぼーん。
十二じを
しらせる かねが
なりはじめました。
「あつ、かえらなくてはー」
シンデレラは
あわてて ひろまを
とびだしました。
かいだんの
とちゅうで、
ガラスの
かたほう
ぬげて
しまいました。



まほうが とけると、シンデレラは
はいだらけの ふくに、ばじゃは かぼちゃに、
うまは ねずみに もどって しまいました。

「この ガラスの くつが
ぴったり の ひとを
さがして くれ。」
おうじさまの
めいれいで、けらいたちが
くにじゅうの いえを
たずねました。
シンデレラの
いえにも
やって きました。
でも、おねえさんたちは
あしが おおきくて、
くつが はいりません。

「わたしも はいて
いいですか?」
さいごに シンデレラが
はいて みると、
ガラスの くつが ぴったり。
「あなたこそ おうじさまが
さがしていた かたです。」



シンデレラは
おしろへ
むかえられて、
いつまでもしあわせに
くらしました。

(おわり)



いっすんぼうし



むかし、
あるところに
こどものいない
ふうふうが
いました。
ふたりは
かみさまに
おねがいを
しました。
「どんなに
ちいさくても
いいですから、
こどもが
できますように。」
すると、ほんとに
とても「ちいさな
おとこのこが
うまれたのです。
ふたりは
おおよろこび。
おとこのこに
「いっすんぼうし」と
なまえを
つけて
かわいがりしました。

ところが、

いつすんぼうしは

なんねん たつても

ちいさい ままです。

それでも、げんきいっぱい

かしこい おとこの こに

そだちました。

ある ひ、いつすんぼうしは

おとうさんと おかあさんに

いいました。

「みやこへ いって、りっぱな

さむらいに なりたいと

おもいます。ぼくに おわんと

はしと はりを ください。」

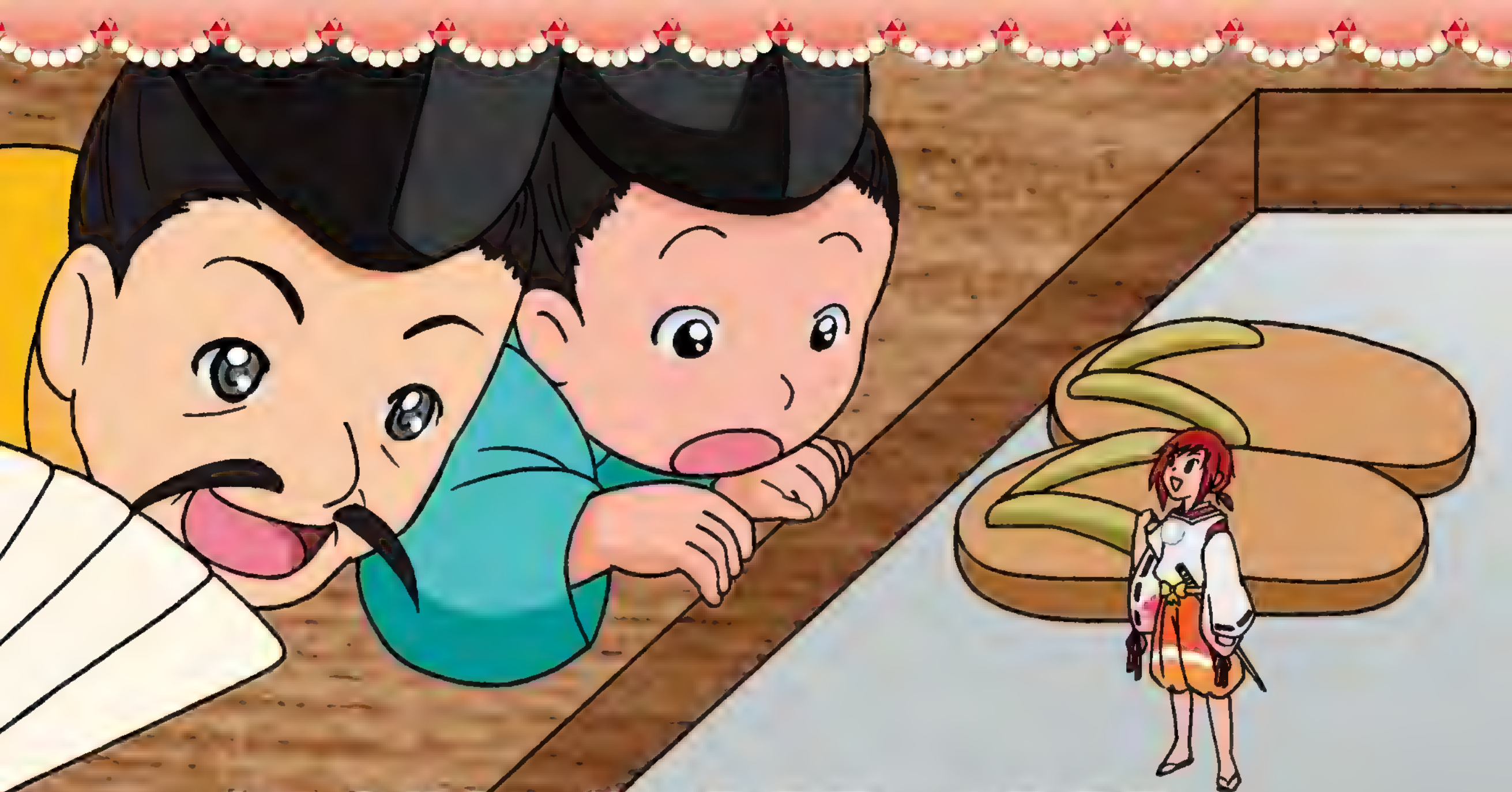
そして、かたなの かわりに

はりを こしに さして、

おわんの ふねを はしで こいで、

かわを くだって いきました。





ぶじに みやごに
ついた いっすんぼっしは、
おおきな おやしきに
はいつて いきました。
「たのもう、たのもうー」
げんかんで さげぶと、
でて きた けらいは
ちいさな おとこの こを
みて、びっくり。
「どうか この いえで
はたらかせて ください。」
げんきよく あいさつを
したので、このさまは
いっすんぼっしを
とても きに いりました。
「よし、けらいに
して やろっ。」

ある ひ、おひめさまは
いつすんぼうしをつれて、
おてらへ おまいりに
でかけました。
すると、とちゅうで
おそろしい おにが
おひめさまを さらおつと
おそつて きました。
「きゃあ、たすけて〜!」





「よし、ほくが あらいたー」

いつさんほつしは

ゆうかんに、はりの かたなで

おにに むかつて いきました。

おにに ぱへりひひ

のみこまれても、

おなかの なかを ちくり

ちくりと おおあばれ。

「いたたた。やめて くれー」



おには

いつすんぼつしを

はきだして、

にげて しまいました。

「ありがとう、

いつすんぼつし。」

おひめさまは、

おにが みちに

おとして いった

こづちを みつけました。

「これは なんでも

のぞみが かなう、

うちでのこづちだわ。」

「それでは、ぼくが

おおきく なるように

して ください。」

おひめさまは、

こづちを

しゃんしゃんと

ふりました。

「いっすんぼっしよ、
おおきく なあれ、
おおきく なあれ。」
すると、みるみる
うちに、いっすんぼっしの
せが のびて
りっぱな わかものに
なりました。
めでたし めでたし。

(おわり)



そんごくう



むかしむかし、
やまの てつぺんに、
いしの たまごが
のつて いました。
ある ひ、いしの
たまごが ぱかっと
われて、いしぎるが
うまれました。
げんきな
いしぎるは、
やまの さるたちの
おうさまになり、
たのしく くらして
いました。
「そうだ。もっと
つよくなる ために、
せんにんに
あいこ いんぐー」

せんじんの でしに なった
いじぎるは、「そんぐく」と
なまえを もらいました。
たくさん しゅぎょうを して、
いろいろな じゅつを おぼえました。
そして、きんとうんとう いう くもに
のって、やまへ かえりました。





そんなぐんは、
うでだめしに、じゅつを
つかつて ようかいを
たいじします。
そして、にようぼんを
いう、のびたり
ちぢんだり する ぶんぞ
おおあばれ。
「へへっ、これで
えらく なったぞ。」

とくに なつて

あばれる

そんごくうの まえに、

ある ひ、おしゃかさまが

あらわれました。

「みんなを こまらせた

ばつですよ。」

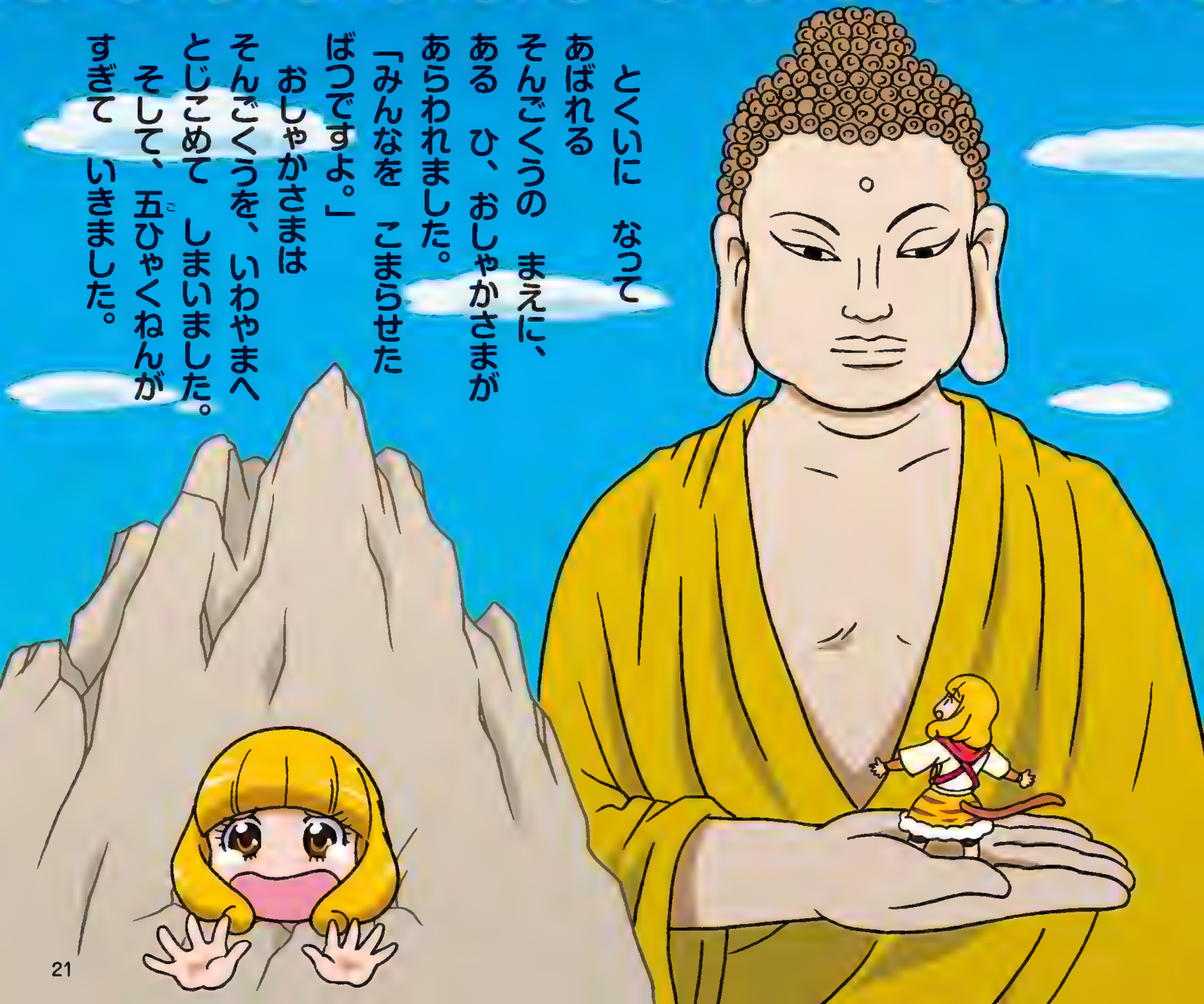
おしゃかさまは

そんごくうを、いわやまへ

とじこめて しまいました。

そして、五ひゃくねんが

すぎて いきました。



ある ひ、
さんぞうほうしが
とおりかかりました。
そんごくうは
なきながら たのみます。
「おねがいです。
ここから
だして ください。
だして くれたら、
でしに なります。」
さんぞうほうしが いのるよ、
いわやまが だけました。
しかし、そんごくうは
にげだそうと します。
その とき、
そんごくうの
あたまに、
きんの わが
つけられて、しめつけました。
「いたい。もう にげません！」
さんぞうほうしが
いのるのを やめると、
いたみが とれました。



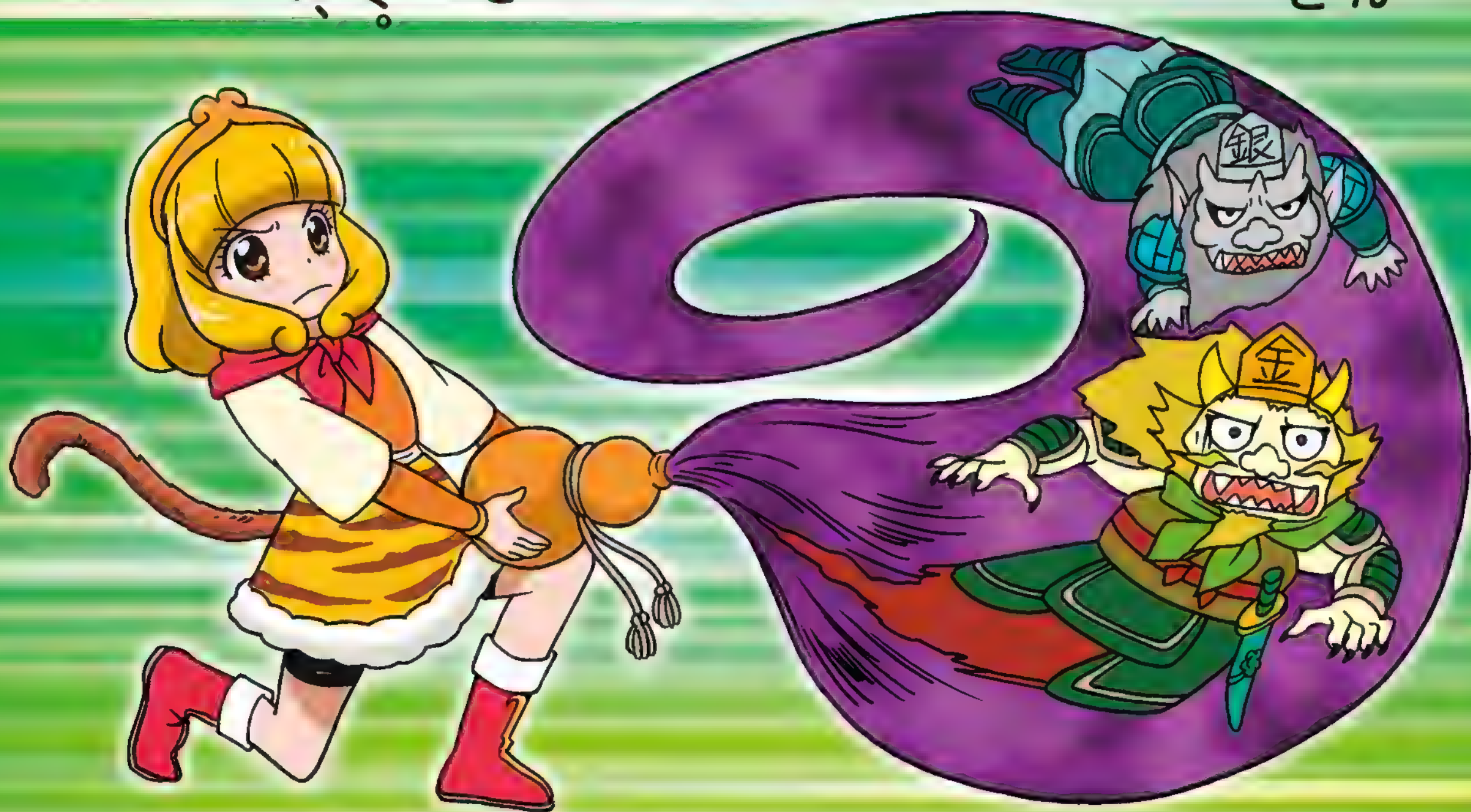


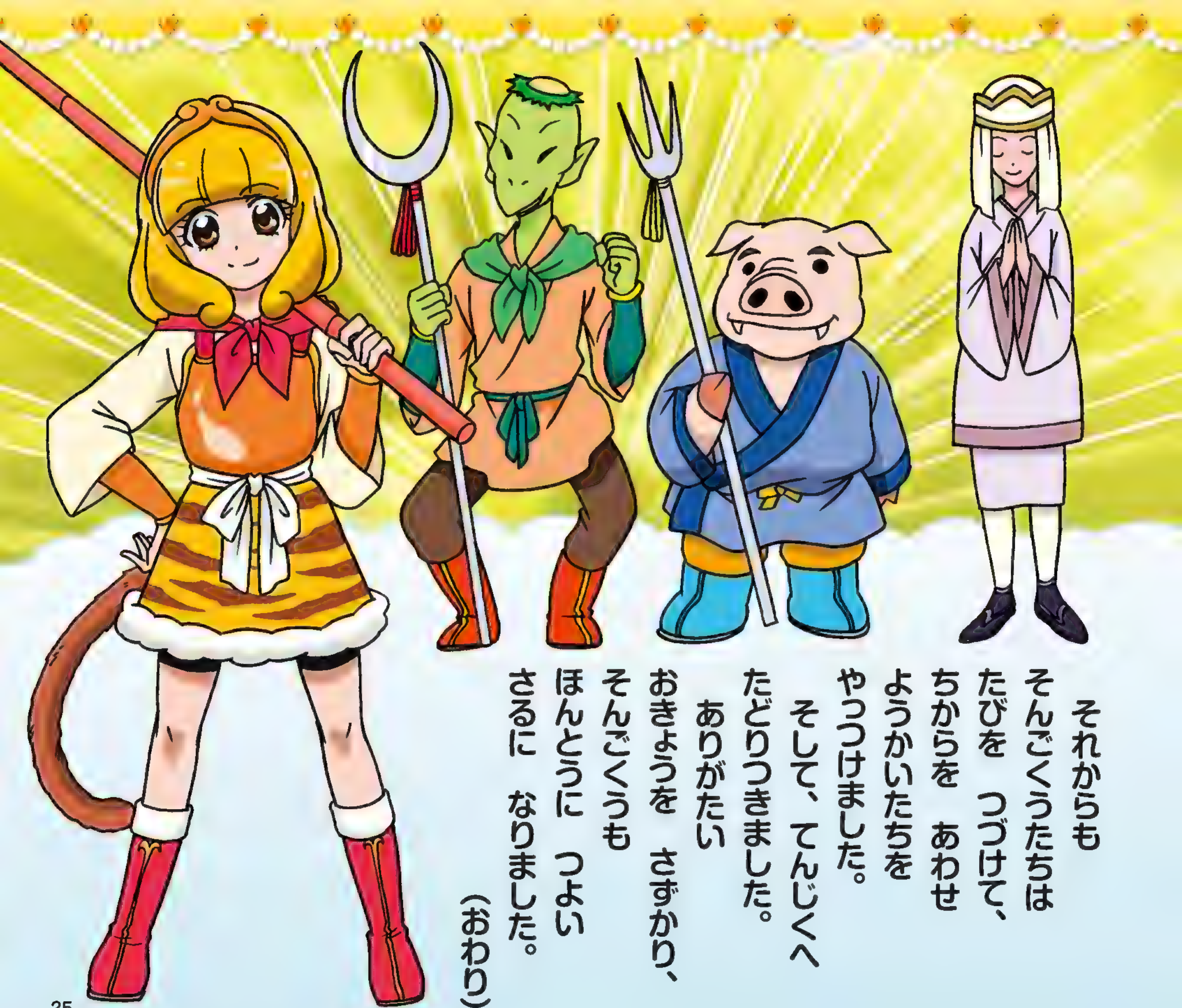
こんどは、
かわで あばれる
さんぞうほつと いっ
かつぱを
たいじしました。
ちよはつかいと、
さんぞうほつとの
おともに くわりました。

さんぞうほつが、
さんぞうほつと
たびを して くるよ、
むらで あばれる
ちよはつかいと いっ
ぶたを みつけ、みごと
たいじしました。
ちよはつかいは、
おともに くわりました。



ある ひ、とつぜん
きんかく、ぎんかくと
いう ようかいが
おそつて きました。
そんごくうは、
へんじを すると
なんでも
すいこんで しまつ
ひょうたんを、
ぎんかくから
うばいます。
「おい！ きんかく、
ぎんかく。」
「なんだ！」
おもわず へんじを
して しまった、
きんかくと ぎんかく。
あつと いう 間に、
ひょうたんに
すいこまれて
しまいました。





それからも
そんごくうたちは
たびを つづけて、
ちからを あわせ
ようかいたちを
やつつけました。
そして、てんじくへ
たどりつきました。
ありがたい
おきよつを さずかり、
そんごくうも
ほんとうに つよい
さるに なりました。

(おわり)

うらしまたろう



むかし、
ある むらに、
うらしまたろうと
いう わかものが
いました。
ある ひ、はまべへ
いくと、こどもたちが
かめを
いじめて います。
「かわいそうに。
はなして
やりなさい。」
うらしまたろうは
かめを たすけて、
うみへ にがして
あげました。

しばらくして、うらしまたろうが
つりをしていると、うみの
なかから かめが あられました。
「あのときは、たすけて
くれて ありがとう ございました。
おれいに りゅづづじゅづづ
ごあんないします。」
うらしまたろうは よろこんで
かめの せなかに またがりました。

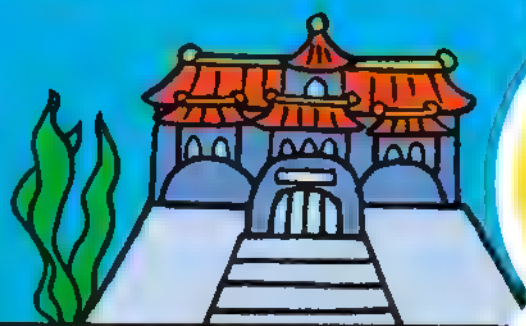


うらしまたろつを
のせて、
かめは すいすい
もぐつて いきました。
「いらいまだるいちゃん、
めいめいごいへいめい
めい ねむねむ。」

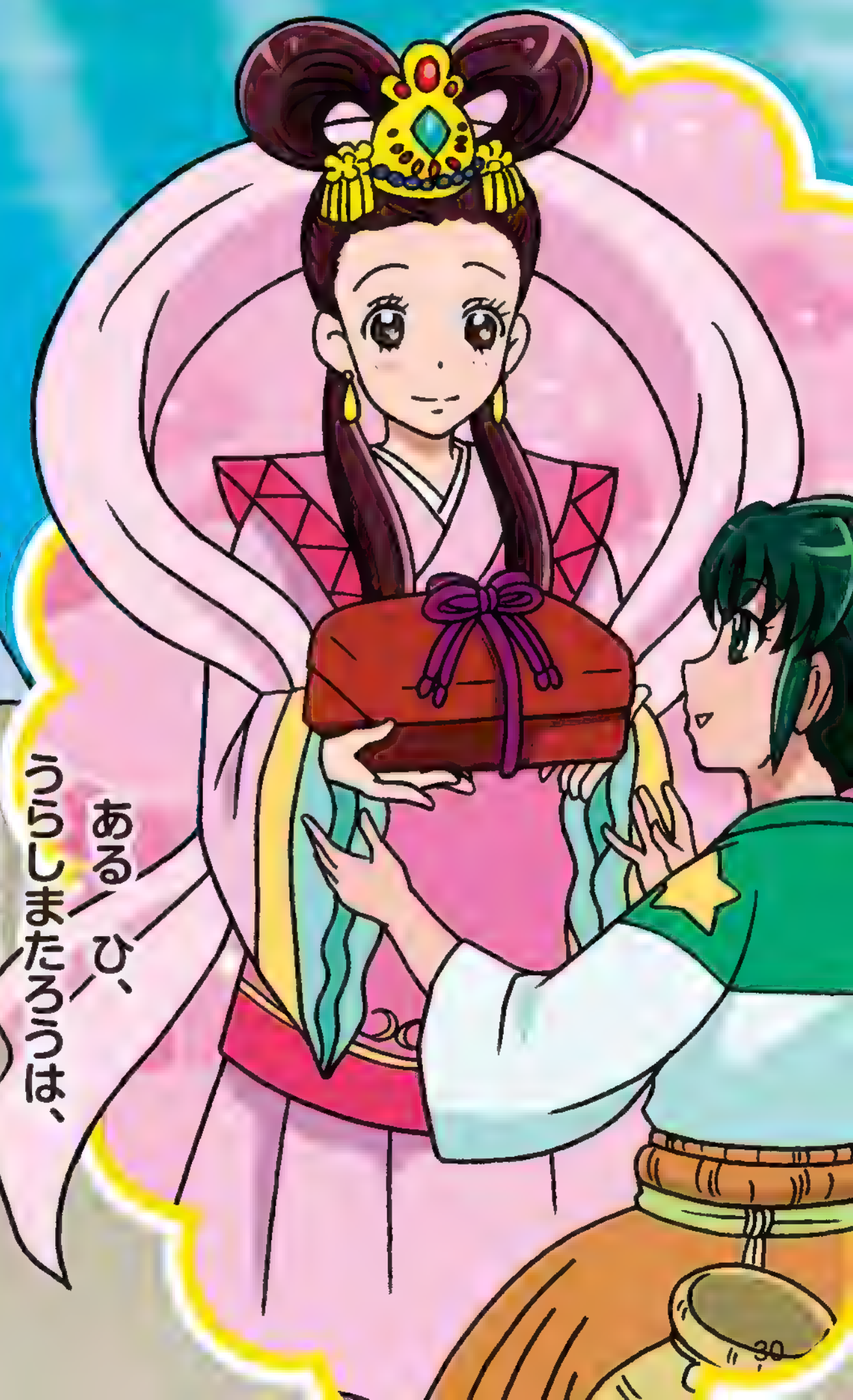


りゅいべいじゅいべい、
うつくしい おとひめさまが
むかえて くれました。
「どいぞ ゆつり
していつて くだわら。」
ごちそうが くて きん
さかなたちが ひらひらと
おどつて います。
「なんて
しあわせなんだろう。」
うらしまたろうは
ゆめのような
まいにちを すごしました。





あるひ、
うらしまたろうは、
ふるさとの
むらを おもいだしました。
「おとひめさま、
わたしは そろそろ
いえに かえる
ことに します。」
「では、おみやげに
この たまてばこを
あげましよう。
でも、けっして
あけては いけませんよ。」



うらしまたろうが
かめに のつて
はまべへ かえると、
むらの ようすが すっかり
かわって いました。
しらない
ひとばかりです。
「うらしまたろうの
いえを しりませんか？」
「はて？ それは
ひやくねんも まえに
うみへ いった まま
かえって こなかった
ひとですよ。」
「なんだって！」





びっくりした

うらしまたろうは、

つい、たまたまはこの ふたを

あけて しまいました。

すると、なかから

しろい けむりが

もくもく もくもく。

あっと いう まに

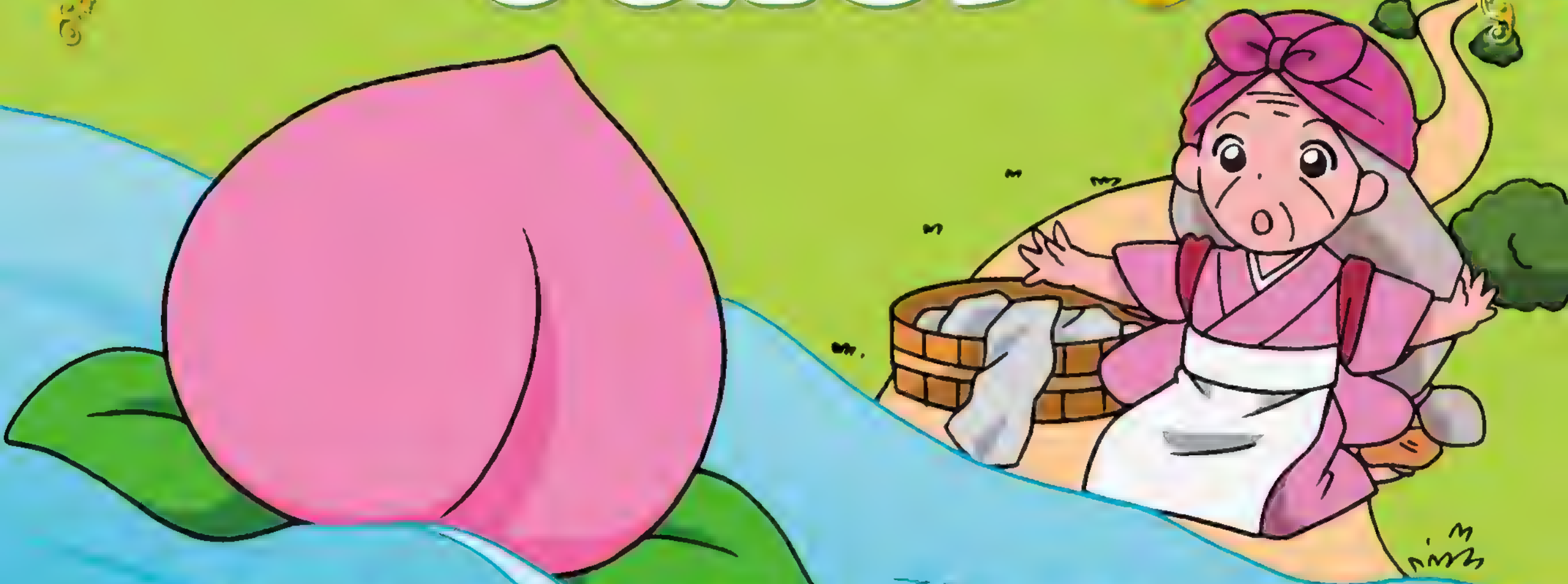
まっしろい ひげの かおに

なつて しまいました。

(おわり)



ももたろう



むかし、

あるところに

おじいさんと

おばあさんが

あるひ、

おじいさんは

やまへ しばかりに、

おばあさんは かわへ

せんたくに いきました。

すると、かわから

どんぶらこ、

どんぶらこ、

おおきな ももが

ながれて きたのです。

「おやまあ、なんて

みごとな ももだこと。

おじいさんと

たべましょう。」

どろどろいしよと、

ももを かかえて

いえに かえりました。

さっそく ももを
きろうつと すると、
ぱかん!と
ももが われました。
なんと、ももの なかから
げんきな あかちゃんが
とびだして きたのです。
「まあ かわいらしい。
うちの こにして
そだてましよう。」
「ももから うまれたから、
なまえは
ももたろうじゃ。」





ももたろうは すくすくと
おおきく なりました。
その ころ むらでは、おにが
きて あばれまわり、むらの
ものを とって いくので
みんなが こまっ て いました。
「おじいさん、おばあさん、
おにたいじに おにがしまへ
いっ て きますー！」
ももたろうは、おばあさんに
おいしい きびだんごを
つくって もらった。げんきにな
でかけて いきました。

はじめに、いぬに
あいました。
「ももたろうさん。
どこへいくのですか。」
「おにたいじに
おにがしまへ
いくんだ。」
「わんわん、
きびだんごを
一つ^{ひと}ください。
おともします。」
つぎに、さるに
あいました。
「きやつ、きやつ、
きびだんごを
一つ^{ひと}ください。
おともします。」
つぎは、きじです。
「けくん、けくん、
きびだんごを
一つ^{ひと}ください。
おともします。」





うう して、ももたろうと いぬと
ちるき ぎじは、ふねに のつと
おにがしまへ むかいました。
「ちあ、いよいよ おにがしまだー！」



「わるい おにたちめ。
かくごしろー!」
ももたろうたちは、
きびだんごを
たべて いるので
げんきいっぱいだね。
いぬは かみつき、
さるは ひっかき、
きじは つつきまします。
そして ももたろうは、
おにの おやぶんを
なげとばしました。

「どうか ゆるして ください。
とって きた ものは、
すべて おかえしします。」
おにたちは ごうさんです。
ももたろうは、たくさんの
たからものをもつて、
むらへ かえつて きました。

(おわり)





どうみんな
たのしかった？

せかいから
えほんの
もどって
きたわ。

みぎの えは
どの はなしに
でて きたか、
わかるクル？



①「リベリ」の カラスの <、②「いっすんぼうし」の おわん、③「そんごう」の きんの わ、
④「らしまたろう」の たまてぼて、⑤「もちたろう」の きびだんご。

映画 スマイルプリキュア! 絵本の中はみんなラグバグ!

えいがの
なかでも
おなじ 五つの
ものがたりの
しゅじんこうに
なつた
プリキュアたちが
かつやくするよ。
たのしみね!

あこがれの
シンデレラに
なれるなんて、
ウルトラハッピー!



せいがかんで あおうね!

キャンディも
がんばるケル!

ぷりきゅあ プリキュアの えいがで えほんの せかいへ いこう!



ISBN978-4-06-350363-0 C9474

雑誌 61201-84

おともだちスーパーワイド百科⁶³ スマイルプリキュア! 名作えほん

2012年9月5日 第1刷発行

■発行者 持田克己

■発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21(〒112-8001)

■印刷・製本/図書印刷株式会社

■絵/東映アニメーション

■構成/萩谷美可 ■デザイン/バッドビーンズ

©ABC・東映アニメーション Printed in Japan

©2012 映画スマイルプリキュア!製作委員会

落丁本・乱丁本は、購入書店名を明記のうえ、小社業務部(電話03-5395-3603)あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、プレススクール第二出版部(おともだち)あてにお願いいたします。本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

※予想外の事故(紙の端で手や指を傷つける等)防止のため、保護者の方は書籍の取り扱いにご注意ください。